

地域診断の見方 その1・全体傾向を見てみよう

大きく変化が見られた項目は、「⑦グループ活動（企画・運営）への参加意向がある者の割合」が関市全体で 5.7%の低下、「⑨スポーツの会参加者の割合」は 4.9%の低下、また図にはありませんが「趣味の会参加者（月1回以上）割合」は 5.6%の低下が見られました。これは、調査時点の 2019 年度（2020 年）1 月ごろの新型コロナウイルス感染症の影響により、サークル活動に参加できなくなったことが一つの原因と考えられます。今回はデータとして運動能力の低

下に相関性は見られませんでした。2020 年以降のデータに影響が見られるかも知れません。また、直接的な相関があるとは言えませんが、関市全体では「③うつ割合」が地域によっては大きな増加が見られます（上之保 9.2→17、瀬尻 8→18.6、旭ヶ丘 14.1→20.8、洞戸 11→21.3、富野 16→23）。地域診断は要介護認定を受けていない 65 歳以上を対象としていることから、地域としても日頃の生きがいづくりを意識する必要があります。

地域診断の見方 その2・地域ごとに変化の大きい項目を見よう

次に、「③うつ割合」のように、著しく変化のあった地域を見てみましょう。改善傾向として大きく変化があった地域は、「①要介護者リスク割合」における板取地域（50→32.4）、安桜地域（39.2→29.4）、小金田地域（32→22.9）があります。また、「⑥幸福感がある者の割合」では桜ヶ丘地域（43.4→56.9）が、「⑧1年間の転倒あり割合」では倉知地域（35.6→14.3）が大きく改善されています。一方、「③要介護者リスク割合」では富岡地域（19→27.3）が割合として増えています。他にも、「④独居者割合」では板取地域（14.7→37）、下有知地域（5.4→19.5）、桜ヶ丘地域（1.8→11.9）、「⑤主観的健康感が良い者の割合」では瀬尻（89.8→79.1）、「⑥幸福感がある者の割合」では下有知（57.4→

46.6）、「肥満（BMI25 以上）者割合」では瀬尻地域（10.3→25.4）、下有知（13.5→24.4）、洞戸（15.8→26.3）と、前回より状況が悪くなっている項目が見られます。ここで確認したいことは、単純に数字の良し悪しに一喜一憂するのではなく、2016 年から 2019 年の間に取り組んだ、あるいは止めてしまった地域の活動は何かあったのかということです。新しく始めた取り組みや、内容を改良してやってみたり取り組みが影響している可能性も考えられますし、止めてしまった、または取り組んでいるのに効果が見られない取り組みは、地域の課題を鑑みて内容を改良する余地があると考えられます。

さいごに

今回は、年ごとの比較ができるようになったことから、2つの視点で地域診断をご紹介しました。他にも、「地域の差の大きさを見る」など、さまざまな見方からデータを読み解くことができます。65 歳以上を対象とした地域活動の指標として、ぜひ地域診断の項目を取り入れてみましょう。また、人口構成が似ていて、改善傾向が見られる地域の取り組みを真似するのもよいでしょう。しっぶす Vol.27 の「地域委員会ごとの 18 歳未満の同居世帯率 × 高齢者率」をご参考ください。

文責：林加奈（関市市民活動センター職員）
参考：JAGES（一社）日本老年学的評価研究機構
<https://www.jages.net>

